



川村ひろあき県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

9月県議会一般質問

バス路線の安定的な運行を

魅力あふれる千葉市・千葉県づくりに全力を注ぐ川村博章
県議（千葉市花見川区選出）は、9月県議会に登壇し、バス路線の維持や災害対応、千葉市と県警との連携や農業政策についてなど、多項目にわたって県民・市民の立場から県執行部の考え方をたどりました。その概要をお伝えします。

川村議員

千葉市花見川区には、千葉シーサイドバスが運行するJR幕張駅から花島公園を結ぶバス路線がある。

この路線は1日当たり約

1,000人が乗車する、利用者が多い路線であり、ほかのバス会社による運行路線がない区域もあるため、千葉シーサイドバスが地域の生活の足を一手に担っている。

しかし、本年3月、会社から国に対して、この路線を本年9月で廃止する届け出が提出された。その後、地元住民などからの強い要望もあり、条件付きではあるが、10月以降も継続する方針が示されたため、今後、国へ変更の届け出が提出される見通しである。

この路線の維持に向けた調整について、県においては、どのような対応を行ってきたのか確認したいと思う。



9月県議会一般質問に登壇した川村議員

そこで伺う。千葉シーサイドバスの運行路線の維持に向けた県の取組状況はどうか。

総合企画部長

千葉シーサイドバスが、JR幕張駅・花島公園間のバス路線について、本年9月末で廃止する届出を国に提出したことを受け、地元千葉市と同社との間で路線の維持について協議が進められてきたところであり、県としても、運行の継続を働きかけてきました。

こうした中で、同社から、当該バス路線の運行を10月以降も継続し、その前提として、経路変更や減便等と合わせて輸送量を確保するために車両を大型化する意向が示されたことから、県では、同社に対し、車両の改装費用等の助成を決定したところです。

県としては、今後の運行状況を注視しながら、当該バス路線が安定的に運行されるよう、引き続き、千葉市やバス事業者等と連携し対応してまいります。

川村議員 千葉シーサイドバスの路線の維持が困難となっている主な理由について、会社は運転手不足を挙げている。

そこで伺う。路線バスの運転手確保対策について、県の取組はどうか。

総合企画部長 県では、路線バスの運転手確保対策として、運転手専門の合同就職説明会の開催や、労働環境の改善に対する補助などを行っているところです。

今後とも、事業者の意見を丁寧に向いながら、運転手の確保を支援してまいります。

要望

生産年齢人口が減少する中、運転手確保対策だけでは、路線バスを維持することは難しい状況にあると考える。全国的には、バス路線で自動運転レベル4の実証実験が行われる。

豪雨への対応策

川村議員

8月13日からの記録的な豪雨により、鉄道は、冠水などにより、JRや京成電鉄をはじめ、多くの路線で運休となった。そこで伺う。本年8月の豪雨の影響による県内鉄道の運休に際し、県はどのような対応を行ったのか。

崩れなどの被害が生じ、多くの路線が運休となったことから、県では、各鉄道の運行状況を取りまとめ、速やかに警察・消防や学校等の関係機関に共有したほか、SNSや県ホームページなどを通じて、広く周知を行いました。

また、JR外房線の一部区間については、運転再開まで相当な時間を要する見込みがある。また、JR外房線の一部区間については、運転再開まで相当な時間を要する見込みがある。

川村議員 バス事業者には、稼働していないバス車両が存在する場合があります。そこで伺う。避難所の暑さ対策として、バス車両をクーリングシェルターとして活用すべきと考えるがどうか。

防災危機管理部長 災害時の避難所では、避難者の安全を確保するとともに、健康を維持するための良好な生活環境を整えることが重要であり、季節や被災状況、現場のニーズ等を踏まえた対応が求められる場合があります。

先般の令和8年熊本地震においては、避難者の暑さ対策の一環として、地元のバス事業者と連携して避難所に冷房の効いた大型バス2台を配置し、クーリングシェルターとして活用する取組が行われ、多くの避難者が酷暑から体を休めるために利用されました。

県としては、こうした取組事例を広く市町村に共有するとともに、今回の事例を参考にしながら、県内バス事業者等との連携強化についても検討を進め、避難所における暑さ対策の充実に取り組んでまいります。

幕張メッセの強みを活かした街づくり

川村議員

新たなマリンスタジアムの建設による幕張メッセへの影響について、県はどのように考えているのか。

商工労働部長

幕張メッセの大きな強みは、約5,000台の車両を収容できる展示場に隣接した駐車場を有し、かつ、その駐車場が一般車両と搬入・搬出車両の双方にとって利用しやすい平面構造であることが挙げられます。一方、千葉市の基本構想では、駐車場は現在の残地部分と幕張海浜公園Gブロックの2箇所に分散されることから県としては、機能性や利便性が新たな駐車場でも継承されるなど、幕張メッセの強みが維持されるようにする必要があります。他方で、商業や宿泊等の複合的な機能を有する新たなマリンスタジアムが幕張メッセに近接して立地され、それぞれの強みを活かしたまちづくりや、地域全体の賑わい、利便性の向上が図られることで、幕張メッセのMICE施設としての魅力や競争力の向上につながるものと考えています。

現在、用地の取得率は約3割で、これまでに、またまた用地が確保できた箇所から道路改良工事を実施してきており、長作交差点付近では慢性的な渋滞を緩和するため、暫定的な右折レーンを設置したところです。

要望

10月1日以降は千葉シーサイドバスのルートとして大型バスが通行することからも、長作交差点における右折レーン設置の早期完成を強く要望する。併せて、美浜長作町線全線の交通円滑化に向けて、4車線化の早期実現に必要な予算の確保に努め、事業を着実に推進していただくよう要望する。

各行政区と県警の連携を密に

川村議員 JR幕張駅北口へ移転した千葉西警察署幕張駅前交番は、7月22日に開所された。

地域警察活動をより効果的に推進し、地域が抱える治安上の課題に的確に対処していくためには、警察と

自治体等が、地域の実情や課題を共有し、連携していくことも重要である。

そこで何う。幕張駅前交番の移転開所による影響はどうか。

警察本部長 幕張駅前交番は、工期の変更が生じ、

本年7月22日にJR幕張駅南口から北口に移転し、運用を開始したところだ。

事前に県警ホームページやミニ広報紙などによる周知に努めた結果、混乱はなく、来訪された方からも「きれいになって交番に入りや

すくなった。」との声をいただいております。

新しい交番も地域住民の皆様が親しんでいただけるよう、管内における警察活動に積極的に取り組んでまいります。

と千葉北警察署の行政区との連携はどうか。

このため、これらの警察署では、平素から各行政区と連携し合同パトロール、交通安全運動等の取組を行っているほか、事件発生時には、必要に応じて、警察署間において事件情報等を迅速に共有するなど、警察署や行政区の実情に応じた取組を行っているところです。

こうした取組により、複数の警察署が複数の行政区と相互の連携を密にし、地域を一体として捉えた切れ目のない対応をしております。

川村ひろあき県議会レポート



自席から要望する川村議員

地域農業に寄り添った対応を

川村議員 現在、不安定な国際情勢の影響により、肥料や燃油など生産資材の価格高騰が続いている一方で、価格転嫁が十分に進んでおらず、農家の経営が圧迫されてきている。

すでに本県の農業の担い手である基幹的農業従事者は平成22年からの15年間でおよそ半減している状況である。

本県が将来にわたり農業県として発展していくため

には、農業者の営農継続への支援はもとより、本県で新たに農業を始めようとする新規就農者の確保にも積極的に取り組んでいくことが重要であると考えている。

そこで何う。県では、新規就農者の確保にどのように取り組んでいるのか。

農林水産部長 新規就農者を確保するためには、温暖な気候や様々な品目が栽培されていることなど、本県農業の魅力を伝え、就農

を希望する方を増やすとともに、就農に向けた準備から定着まで切れ目なく支援していく必要があります。

このため県では、民間の求人サイトを活用した本県農業の魅力の発信や、農業関係団体と連携した県内外での就農相談会を実施するとともに、新規就農者に対し、就農前後の最長5年間、年間165万円の資金交付を行うことなどにより、経営が軌道に乗るまで支援し

ていくところです。

また、今年度からは、職業としての農業への理解を深めてもらうため、県内5箇所で開催する「農業体験」を実施することとしており、これらの取組を通じて、更なる新規就農者の確保を図ってまいります。

要望 依然、新規就農者の確保や担い手不足の解消には至っていない。新規就農者の確保と、就農後の定着支援を含めた取組を一層推進されるよう要望する。

川村議員 園芸産地の共同利用施設の再編・合理化を進めるために、県はどのように支援しているのか。

農林水産部長 園芸産地において、選果や梱包などを行う共同利用施設は、集出荷の効率化等に重要な役割を担っていますが、一部の産地では、農作物の種類や取扱量と施設の処理能力が見合っていないことから、再編や合理化を進める必要があると考えています。

要望 共同利用施設の再編・合理化について、県が目標としている「稼げる農林水産業の実現のためにも早期に進めていく必要がある。今後とも、関係機関と連携し、産地に寄り添った支援をするよう要望する。

川村議員 豪雨による農作物被害に対して、県ではどのように支援しているのか。

知事 県では、発災直後から農業事務所に相談窓口を設置するとともに、特に大きな被害が確認された水稲にんじん、ねぎについて収穫時の注意点や病害対策等を

提供しているところです。

要望 豪雨による農作物被害について、県においては、国や県の支援制度を十分に活用し、農業用施設の早期復旧を着実に進めるとともに、被災した農業者一人ひとりの状況や声を丁寧に対応し、寄り添った対応をするよう要望する。

また、被災した農業者は、今後の生産活動のために必要な種苗や肥料、農業などの購入に損壊した施設の復旧に必要な資金を、通常より低利で融資する「千葉県災害対策資金」を発動したところです。

さらに、地域の農業生産を支える農地や農業用施設等の早期復旧に取り組むなど、今後、国や市町村等と連携しながら、農作物被害を受けた農業者に対し、寄り添った支援を行ってまいります。

千葉ポートパークの賑わい創出で地域活性化へ

川村議員 千葉ポートパークの賑わいの創出に向けて、県はどのように取り組むのか。

知事 千葉ポートパークは、港湾緑地として港湾利用者や地域の方の憩いの場であるとともに、イベントや観光の拠点として、地域の活性化に大きな役割を果たしているものと認識しています。

そこで、県では、千葉ポートパークのより一層の振興を図るとともに、千葉みなとエリアの更なる魅力向上につなげるため、今年度から、県立美術館やさんばしひろば、千葉ポートタワーなど周辺施設との一体的な活性化等について検討を進めているところです。

今後は、これらの検討結果を取りまとめたランドデザインを策定することとしており、その実現に向けて関係者と連携しながら、千葉ポートパーク及び周辺地域の更なる賑わい創出に取り組んでまいります。

●県政・市政に関するご相談・ご意見・ご提案などお気軽にご連絡下さい。

川村ひろあき 事務所

〒262-0005 千葉市花見川区こてはし台3-13-4 TEL 043-250-1021 FAX 043-250-0071

川村ひろあきプロフィール

経歴

- 1964年2月21日千葉市生まれ
- 千葉大学教育学部附属小学校卒業
- 千葉大学教育学部附属中学校卒業
- 早稲田実業学校高等部卒業
- 神戸大学経済学部卒業
- 早稲田大学大学院 政治学研究科修了
- 川崎重工業株式会社宇宙開発室勤務
- 外務大臣秘書・代議士秘書
- 千葉市議会議員（5期）
- 千葉市議会議長（第78代）

現職

- 県議会 総合企画企業常任委員会委員長
- 千葉市レクリエーション協会会長
- 日本善行会千葉県支部長